

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

2000年(平成12年)10月5日 No. 1172

目次

2000年1～6月の日口貿易	1
統計速報 2000年1～6月のロシアの外国投資受入状況	11
CIS諸国通貨の最新為替レート	12

2000年1～6月の日口貿易

はじめに 今回の速報では、大蔵省発表の通関実績にもとづき、2000年1～6月の日本とロシアの貿易データをお伝えする(第1～5表円建て、第6～10表ドル建て)。

1～6月の貿易額は2,434億2,800万円で前年同期比8.8%プラス、うち輸出額は297億7,400万円(22.8%増)、輸入額は2,136億5,400万円(7.1%増)であった。ドル建てでは、貿易額は22億8,018万ドルで21.2%プラス、うち輸出額は2億7,847万ドル(36.5%増)、輸入額は20億171万ドル(19.3%増)であった。ドル建てが円建てより大きな伸び率を示したのは、為替レートが前年同期に比べて12円以上とかなりの円高になったことによるもので、ドル建ての伸びが円建てよりも強調される形となった。現実の契約、決済はドル建てがほとんどであるということを考慮すると、ドル建てで見た方が実態を反映しているといえるので、1～6月の日口貿易は大幅に伸びたとみることができる。ただ、この伸びは前年の落ち込みによる反動といった面が大きく、最盛期の1995年と比べれば、回復というには程遠い状況にある。

このほか、原油などの国際価格の高騰を背景とするロシア経済の回復や、底を打ったとされる日本の景気回復も貿易増大の要因としてあげられる。

輸出は1992年の日口貿易発足以来、最低水準を記録した前年同期と比べて伸びているが、ルーブル切り下げ前の1998年と比較すると4割程度にまで落ち込んでいる。四半期別にみても1～3月1億2,890万ドル、4～6月1億5,010万ドルと1998年第4四半期以降1億ドル台か1億ドル以下(1999年第1四半期)で推移している。切り下げ前には2億～3億ドル台で推移し、好調な時は4億ドル台に乗せたことも考えると、輸出の低調さが際立つ。このまま